

平成 26 年度 美唄サテライト・キャンパス実施に向けて(たたき台)

1 設置目的及び設置した経過

- 美唄市は、少子高齢化が進展し、地域経済も停滞するなど、厳しい環境にあります。こうした中において、専修大学北海道短期大学が平成 25 年に閉学するなど、地元で高等教育を受ける機会が減少しつつあります。
- 「まちづくりは、人づくり」と言われるように、地域の特性を最大限に生かし、自立的にまちづくりを進めていくためには、多様な人材（人財）の育成が最も肝要なことと考えております。
- 市としては、活力あふれたまちづくりを進めるため、次に掲げる視点を踏まえ、多様な人材の育成に向けた総合的かつ複合的な展開を図っていくことが何よりも重要と認識しており、市内のスポーツ施設、文化芸術施設、豊かな自然環境（近代化遺産を含む）や北海道遺産にも認定されている北海幹線用水路などを活用し、講座の開催や大学との連携による協働事業の実施を通じて、市民との交流も含め、専門教育や高等教育を受ける機会を地元で用意することが、まちの将来を展望したときに不可欠であります。

<活力あるまちづくりを進めるための視点>

- ①自治体のガバナンス能力の向上
- ②基幹産業である農業を核にした6次産業化など、ダイナミックな地域経済の展開
- ③豊かな暮らしの実現につながる生涯学習の充実
- ④次代を担う若者に対する質の高い教育の提供

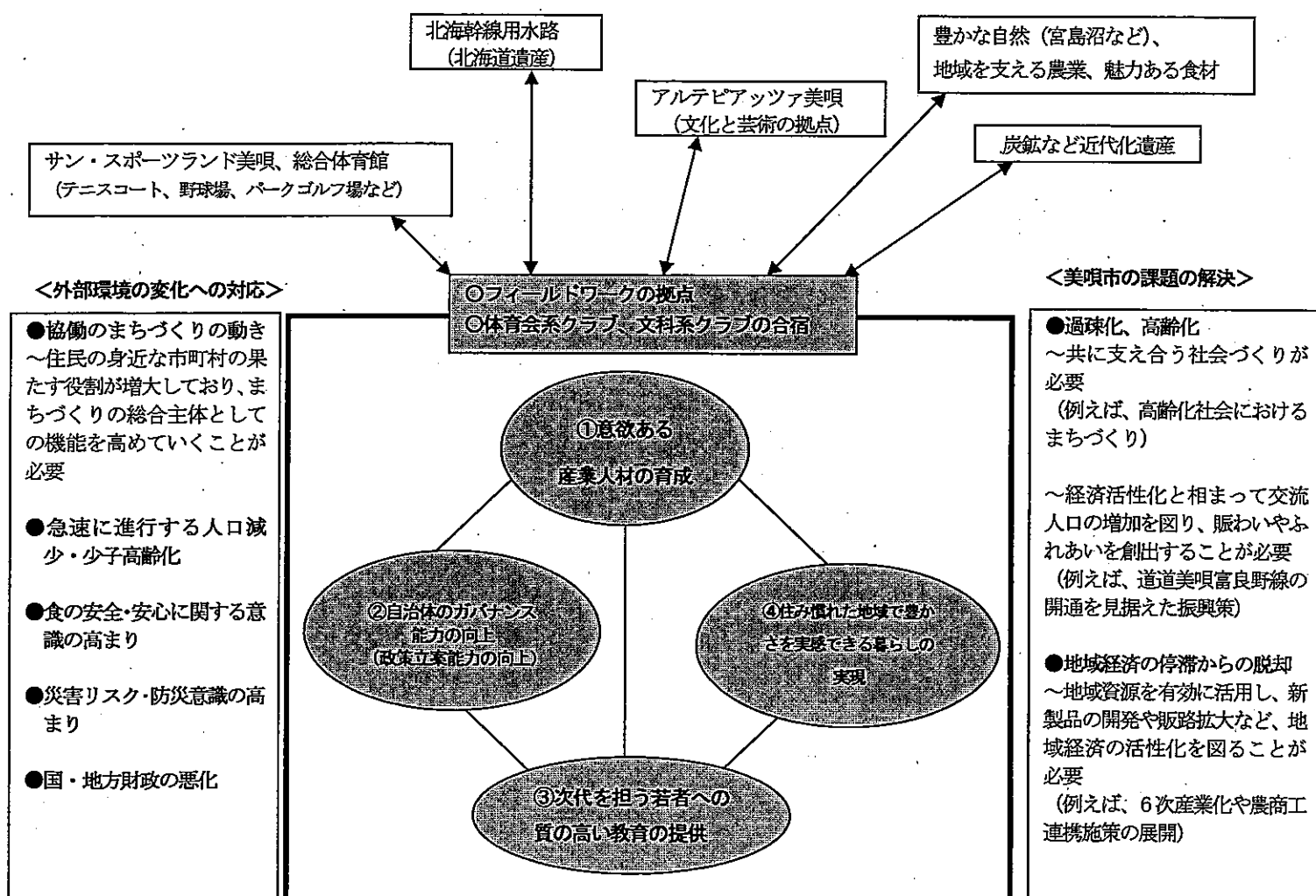
- このため、南・中空知圏などの住民を含め、広域的に利用する複合的な教育、人材育成機能を兼ね備えた施設として、札幌国際大学、札幌大学及び札幌大谷大学等に協力いただき、美唄サテライト・キャンパスを平成 24 年度より開設しております。
- 美唄サテライト・キャンパスは、外部環境の変化への適切な対応や市が抱える課題の解決も視野に入れながら、美唄市の地域の資源である「食」「農」「環境」などを活かした地域づくりを進める意欲ある実践的人材の育成を主眼とし、知識の習得から、様々な形で地域づくりにつなげていくことを基本として実施します。
- 専門的なセミナーなどを受講するには、札幌市などに出向く必要がありましたが、美唄サテライト・キャンパスを開設することにより、地元美唄市で受講することが可能となり、市民等の学習意欲に積極的に応えていくことが必要と考えています。
- また、こうした取組みに大学及び学生が参画することにより、大学の地域貢献はもとより、学生が実務も含めた教育を受けることが可能となり、即戦力としての人材を社会に送り出すことにもつながると考えられます。

2 サテライト・キャンパスの展開方針

- 外部環境の変化への適切な対応や市が抱える課題の解決も視野に入れ、サテライト・キャンパスには、①意欲ある産業人材の育成や、②自治体のガバナンス能力の向上、③次代を担う若者への質の高い教育の提供、④住み慣れた地域で豊かさを実感できる暮らしを実現する機能を兼ね備え、「フィールドワークの拠点や体育系、文化系を問わず合宿地としての役割」と、合わせて、「地域の住民が気軽に集い、ふれあいや交流を行うことが可能な多目的かつ複合的な拠点」として、段階的に発展拡充させたいと考えております。
- また、将来的には、市内外の高校生や大学生、働く若者などがキャンパスで学び、自由闊達に交流を行うことが可能な、南・中空知地域を視野に入れた広域的な人材育成の拠点となるよう目指していきます。

単年度事業の実施

- 市民向け各種講座の実施
- 地域（市・高校等）と大学の連携による協働事業の実施
- サテライト・キャンパスの更なる周知、機運を高める取組み など



美唄市・美唄市教育委員会と美唄商工会議所が主体となり、美唄市民はもとより、南・中空知圏の住民が広く利用可能な、4つの機能が複合化した多目的な「美唄サテライト・キャンパス」を札幌国際大学、札幌大学、札幌大谷大学等の全面的な協力を得ながら、事業成果の検証を不断に行いつつ、発展的に展開したいと考えています。

3 平成 25 年度の実施結果 (中間報告)

(1) 講座の実施について (11/11 現在)

- 12の講座の参加申込者の延べ人数は277人となり、1講座当たりの平均は昨年の実績値 (=今年度の目標) の20人を上回る23人となっている。(92%が美唄市に在住)
講座別にみると、産業系人材養成講座は22人、まちづくりを担う人材養成講座に23人、市民教養講座は25人となっている。
- 受講者の多く (夏季に修了した7講座平均: 約89%) から、参考になったという高い評価をいただいています。
- 開催曜日及び時間帯について、昨年の受講者アンケートの結果を踏まえ、「産業系人材養成講座」及び「まちづくりを担う人材養成講座」は平日の夜の開催を基本に、また「市民教養講座」は土曜日の昼に開催したところであり、参加者から良い評価を受けている。

	産業系人材養成講座 (4講座:うち2講座修了)	まちづくりを担う人材養成講座 (3講座:うち2講座修了)	市民教養講座 (5講座:うち4講座修了)	全講座の合計・平均 (12講座:うち8講座修了)
参加申込者	86人	69人	122人	合計: 277人
1講座当たりの 参加申込者数	約22人	約23人	約25人	平均: 23人
理解度	約67%	約96%	約71%	平均: 76%
有用度	約88%	約90%	約89%	平均: 89%
主な具体的な回答	今まで理解できていなかったことを理解でき、非常に良い講座だった。	新たな視点に気付かされた。自分に何ができるのか考えるようになった。	毎日食べているものに気を付けながら、健康について考えてみようと思った。	

(2) 地域と大学の連携による協働事業 (11/19 時点)

- これまでの取組みにより、新たな美唄の楽しみ方や魅力を再発見したところであり、こうした取組みの成果の活用により、引き続き美唄の魅力を発信して参りたい。
また、市内の小中学生・高校生と大学生との音楽による交流により、技術の向上や今後の音楽活動の大きな支援につながり、成果を挙げていると考えている。
- 来年度以降も、市内の高校生などが美唄の魅力を再発見し、美唄に愛着を持つ契機とするなど、市民との協働によるまちづくりを進めるとともに、大学にとりましても「学生が活きた実践的な教育活動を多様な体験」できるよう実施してまいりたいと考えております。
- 協働事業の事業内容について、情報共有を図るための会議を4月に札幌国際大学で開催したところです。

事業名	実施時期	実施内容
美唄式 あぜ道ピクニック -BIBAI GREEN DESIGN PROJECT-	4/26 (金), 5/31 (金) 7/ 5 (金), 8/24 (土) 8/25 (日)	美唄の田園風景や美唄産の花に囲まれた中で、美唄産の食材を使った軽い食事、これに合った音楽の演奏やデザインを楽しみながら、参加者同士が楽しく会話する (コミュニケーション)、「食・農・アート」をテーマとしたイベント (場所: 貞広農場)
ウィンドオーケストラ吹奏楽ワークショップ及び美唄公演	10/5 (土)、10/6 (日)	①ワークショップ (市内中学校・高校を対象とする技術指導、美唄中学校) ②ミニコンサート (市内6ヶ所) ③演奏会 (美唄市民会館)
美唄50音かるた 2013 秋	11/2 (土)、11/3 (日) 1月下旬	フィールドワーク: 高校生等と大学生による写真のかるたづくり (市内各地) かるた大会: 1月下旬に市内のイベントで実施予定
美唄フットパス・スタートアップ事業 -「全身で楽しむ 美唄」エコ・ウォーキング-	11/10 (日) 悪天候のため中止	美唄市の食の魅力を活かしたコースを企画立案し、フットパス・イベントを実証開催 (場所: ゆ〜りん館〜アルテピアッツァ美唄〜ゆ〜りん館をめぐるコース)
出前授業 (美唄尚栄高校)	1/23 (木)・1/30 (木) 開催予定	札幌国際大学:「農業を活かした地域観光振興」、札幌大学:「コロッケの経営学」 札幌大谷大学:「デザインにできること、求められること」

(3) 中間総括

- 1講座当たりの平均は昨年の実績値(＝今年度の目標)の20人を上回る23人となっている他、市内の商工関係団体や防犯関係団体等において職員の研修事業として位置付けられるなど、美唄市内はもとより、周辺市町に少しずつ浸透しつつある。
- また、協働事業の実施により、市内の高校生などが美唄の魅力を再発見し、美唄に愛着を持つ契機とするなど、市民との協働によるまちづくりを少しずつ進めることができていると考えております。
- 美唄サテライト・キャンパス事業を行うことは、大学の地域貢献はもとより、地域資源を活かした地域づくりを進めることにもつながることから、平成26年度においても、札幌国際大学、札幌大学及び札幌大谷大学等と協力しながら、多目的かつ総合的な人材養成拠点となるよう実施して参りたいと考えている。

4 平成26年度の事業の進め方(たたき台)

(1) 基本的な考え方

- 平成24～25年度の実施状況を踏まえると、市民等の受講ニーズは高いものと理解しており、平成26年度においても、活力あふれたまちづくりを進めるため、引き続き、美唄市の地域資源である「食」「農」「環境」などを活かし、新たな地域づくりを進める意欲ある実践的人材の育成を主眼とし、実践的な知識の習得から、様々な形で地域づくりにつなげていくことを基本として実施します。
- 講座の開催に加え、地域と大学との連携による協働事業の実施を通じて、次代を担う若者に対する質の高い教育の提供を図り就学(学習)意欲を高め、地域に愛着を持ち、美唄の地域づくりに様々な面から携わり、活躍する人材の育成が図られるよう展開してまいります。
- また、将来的には、市内の事業者、従業員、市民に止まらず周辺市町の住民の利用も促進し、南・中空知圏における多目的・複合的な人材養成拠点となるようカリキュラムを設定してまいりたいと考えております。

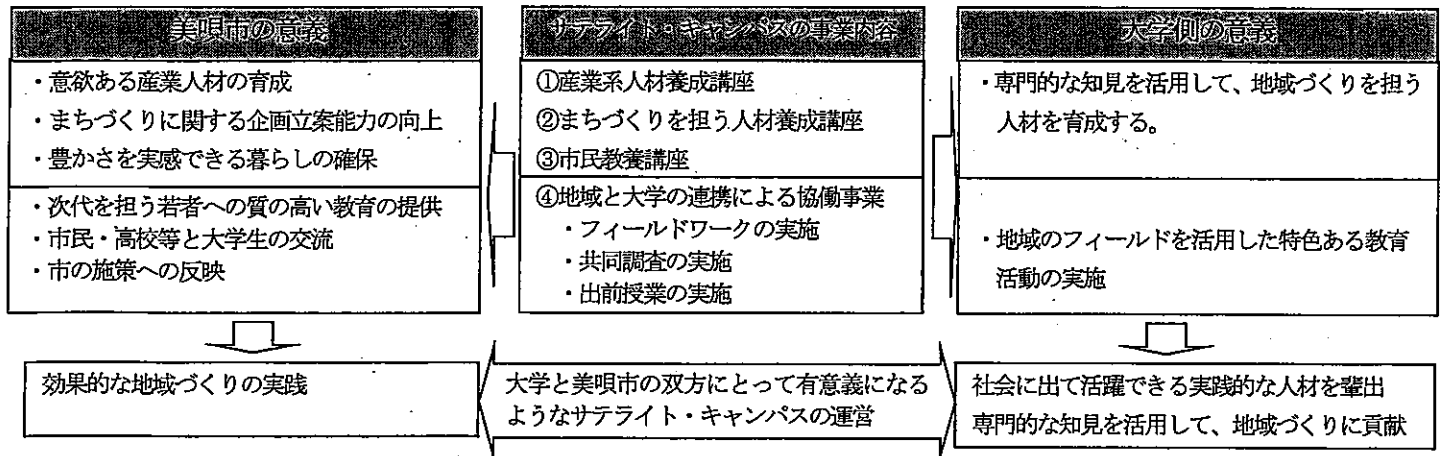
(2) 講座の実施について

- 講座の数については、受講者のニーズを踏まえるとともに、サテライト・キャンパス事業の安定的な運営を進める観点から、平成25年度と同様に「産業系人材養成講座」は4講座、「まちづくりを担う人材養成講座」は3講座、「市民教養講座」は5講座を目途に実施したいと考えております。
なお、講座の数については、大学や講師の方々の事情を最大限優先した上で、柔軟に対応したいと考えております。
- 大学との連携を図り、効果的な事業の展開を図るため、春～夏期(5月頃～7月頃)、秋～冬期(9月頃～1月頃)に分けてカリキュラムを実施することとし、毎年度、事業成果を検証しながら、魅力あるカリキュラムの実施に努めていきます。
- 平成27年度以降の講座の数については、受講者のニーズや参加申込者数等の動向を勘案しながら検討・実施して参ります。

<講座の運営方法等>

- ・ より実効性のある講座を開催するため、講座内容に応じて各講座のコマ数を3コマ～5コマ編成としたいと考えております。
- ・ 開催曜日及び時間帯については、受講者アンケートの結果を踏まえるとともに、講師の方々の都合を最大限優先した上で、「産業系人材養成講座」及び「まちづくりを担う人材養成講座」は働いている方を主なターゲットとして平日の夜に、また「市民教養講座」は女性も含めた市民を主なターゲットとして土曜日の日中に開催したいと考えております。
- ・ また、美唄の基幹産業である農業の従事者の方も受講できるよう、冬季にも講座を開催したいと考えております。
- ・ 講座運営に関する課題等を共有するため、講座の開催結果を当該講師及び他の大学に報告することとしたいと考えております。

■美唄市のサテライト・キャンパスの運営イメージ～大学と美唄市の双方にとって有意義となるような運営



①産業系人材養成講座（４講座程度）

美唄市の地域資源を活かしながら、地域の産業を担う人材の育成が図られるよう、平成 24～25 年度の講座内容を踏まえ、美唄市に密着した専門的な内容、あるいは受講後に実践に結びつくような、より魅力的な講座を開催します。

講 座 名 (例)	主なターゲット	検討依頼大学	コマ数	実施時期(例)
グリーンツーリズムの新たな展開 (他の例：魅力あるイベント創出による地域の活性化) (他の例：おもてなしの心を育むための講座)	市役所、観光物産協会、 観光関係者	札幌国際大学	3～5	10月～12月
農産物（大豆、アスパラやトマト等）の加工・販売—6次産業化の促進※講座内容によっては実習も含む	市役所、農業関係者、農業者	酪農学園大学 等	3～5	5月～1月
魅力ある店舗づくり（商店街活性化に向けて） (または、買い物弱者対策とまちづくり)	市役所、商工会議所、商工業者	札幌大学	3～5	6月～12月
販売力強化に関する講座（例） (営業手法・販売手法・POP作成/活用方法)	市役所、商工会議所、商工業者	札幌大学	3～5	6月～12月
企業経営に関する講座（例） (開業から中小企業経営のポイント)	市役所、商工会議所、商工業者	札幌大学	3～5	6月～12月

②まちづくりを担う人材養成講座（３講座程度）

市、関係団体に加え、一般企業の職員の企画立案能力の向上が図られよう、スキルアップにつながるような講座を開催します。

講 座 名 (例)	主なターゲット	検討依頼大学	コマ数	実施時期(例)
能力開発に関する講座① 例：統・プレゼンテーション能力のアップ（実習も交えて）	市役所、関係団体、 一般企業	札幌国際大学 または札幌大谷大学	3～5	5月～7月
能力開発に関する講座② 例：報・連・相実践講座 例：コミュニケーション能力養成講座 例：文書作成能力の養成 例：折衝力・交渉力強化講座 例：コンプライアンス（危機管理etc）講座 例：ビジネス法務（契約、知的財産etc）講座	市役所、関係団体、 一般企業	札幌大谷大学 または札幌国際大学	3～5	9月～12月
統・協働のまちづくり 例：町内会と協働したまちづくりをどう進めるのか。 ～役員の高齢化等が進行している町内会との協働について～ （防犯、防災、子育て、高齢者の見守り、除雪、総括等） 例：シニア世代が活躍するまちづくり 例：町民主体のまちづくり実践に向けて	市役所、町内会や防犯 協会等の関係団体	札幌国際大学 または札幌大谷大学	3～5	9月～12月

③ 市民教養講座（５～６講座）

市民の豊かな暮らしの実現に向けて、生涯を通じて広く学ぶことができるよう、より魅力的な講座を開催します。

また、ある程度の専門性を確保しつつ、これまで市内で受講の機会がなかった講座も設定するとともに、語学に関する講座については、語学力アップには継続的な学習が必要であることも考慮し、継続して開催します。

なお、楽しく学ぶ韓国語は、昨年度同様に市民の関心も高く、多くの方が受講。（入門編）と（初級編）をとともに受講申込する方が多く、受講者から実施時期を離して開催してほしいという意見があったので、できれば開催時期を離して開催できればと考えています。

講 座 名（例）	主なターゲット	検討依頼大学	コマ数	実施時期（例）
楽しく学ぶ大人の英会話 （４回：初級編、４回ビジネスシーン実践編）	一般市民	札幌国際大学ま たは札幌大谷大学	７～８	５月～７月 ９月～１２月
美術に関する講座	一般市民	札幌大谷大学	５	９月～１０月
美唄の開拓や産業の歴史	一般市民	地元の講師	５	５月～７月
日常生活における健康づくり（実習も含む）	一般市民、運動推進委員、スポ ーツ推進委員、体育協会 等	札幌国際大学	３～５	１１月～１２月
続・食と農・健康の大切さについて （栄養全般、トマト、ハスカップ、大豆、葉物野菜、等）	一般市民、消費者協会 等	酪農学園大学	５	５月～７月

(3) 地域と大学の連携による協働事業（５事業程度）

- 大学の専門的な知見を活用しながら、「地域と大学の連携による協働事業」を実施し、高校生などに多様な教育の場を提供し、大学生に実践的な教育活動の場を提供して参ります。
- 「地域と大学との協働事業」は、相互互惠の関係に立って、永続的にキャンパス事業を進めていく上での中核的事業と位置付け、平成 24～25 年度の事業の成果も踏まえ、発展的に展開していく方向で平成 26 年度以降も実施したいと考えております。
- 協働事業の実施に当たっては、事業内容について情報共有を図るための場を設定し、事業内容や実施方法について大学間の情報共有や他大学の学生の参加も検討したところ。
- 協働事業の数については、平成 26 年度においても、３つの事業（１大学当たり１つ）を基本として取組みたいと考えていますが、各大学・講師の意向や状況も十分に踏まえながら実施したいと考えております。
- 出前授業については、次代を担う若者に質の高い教育を提供し、学習意欲やまちづくりや仕事にチャレンジする意欲を高めるような内容として実施したいと考えておりますが、来年１月の開催結果を勘案した上で、美唄尚栄高校とも協議した上で、別途、実施に向けて検討して参ります。
- 昨年に実施した「美唄 50 音かるた 夏」に関する反響や美唄市民からの要望に応え、宮田専任講師から複数年での完成に係るプランを提案していただいております。今後複数年での完成に向けて、宮田専任講師の都合も十分に配慮するとともに、制作方法について検討・実施したいと考えております。

内 容	検討依頼大学	実施日数	実施時期
①大学生と市民による共同調査・取組み等 例: 食べ歩きフットパスイベントの本格実施 または、卓球部と市内卓球チームとの合同練習 (可能であれば大学生の合宿も含む)	札幌国際大学		7月～10月 7月～1月
②大学生と地域(商工会議所)による共同調査・取組み等 例: 買い物難民や商店街の活性化につながるような共同調査	札幌大学		6月～10月
③大学と市民との協働による芸術創作活動 例: アートのまちづくりにつながるアートイベントの企画・実施 子どもとの共同による芸術創作活動	札幌大谷大学		6月～10月
④美唄 50 音かるた 2014 春・冬			4月～3月
⑤出前授業の実施(美唄尚栄高校) 本年度と同様に、1大学当たり1つの授業を取り組みたいと考えており、来年1月の開催結果を勘案しながら、美唄尚栄高校とも協議した上で、別途、3大学と提案して参りたい。		3テーマ	別途協議
＜札幌国際大学に希望するテーマ例＞ ・H25年度:「観光」等に関する分野	札幌国際大学	各1コマ ～2コマ	※平成25年度は平成26年1月に実施
＜札幌大学に希望するテーマ例＞ ・H25年度:「経営」に関する分野	札幌大学	※1コマ当たり70分	
＜札幌大谷大学に希望するテーマ例＞ ・H25年度:「美術」等に関する分野	札幌大谷大学		

(4) 総括・まとめ

成果発表会・交流会 市民(市職員を含む)を対象に実施し、政策提言などの発表を通じて、キャンパスの存在意義を市民に浸透させていくとともに、受講生同志、受講生と講師、又は講師間の交流を図れるよう開催する。	2月頃	
--	-----	--

5 実施体制

○事業主体：美唄サテライト・キャンパス運営協議会

(事務局は、市、市教委及び商工会議所が連携して担当)

○市、市教委、美唄商工会議所、観光物産協会、(社)地域人材開発センターにより組織している「美唄サテライト・キャンパス運営協議会」が安定的に運営していくには、魅力ある教育プログラムなど、多くの関係者の協力を得ながら着実に事業を推進することが重要であり、引き続き札幌国際大学、札幌大学及び札幌大谷大学をはじめとする関係団体の参画をお願いしたいと考えています。

○各講座の運営について、市は「まちづくりを担う人材養成講座」を担当し、市教委は「市民教養講座」を担当し、また、商工会議所においては「産業系人材養成講座」を担当します。

「地域と大学との協働事業」については、市、市教委及び商工会議所(以下「三者」という。)が相互に連携しながら、事業成果が最大化するよう努めていきます。

(1) 運営方法の検証

○効果的かつ効率的な講座や協働事業を実施するため、平成26年度においても、講座運営を担当する三者は、実施効果の検証、効果測定に取り組むこととします。

①三者は、講座開催毎に受講者のアンケート調査結果(速報版)を取りまとめ、講師に送付します。

②三者による反省・検証会を講座実施毎に実施し、講座運営の実効性を高めます。

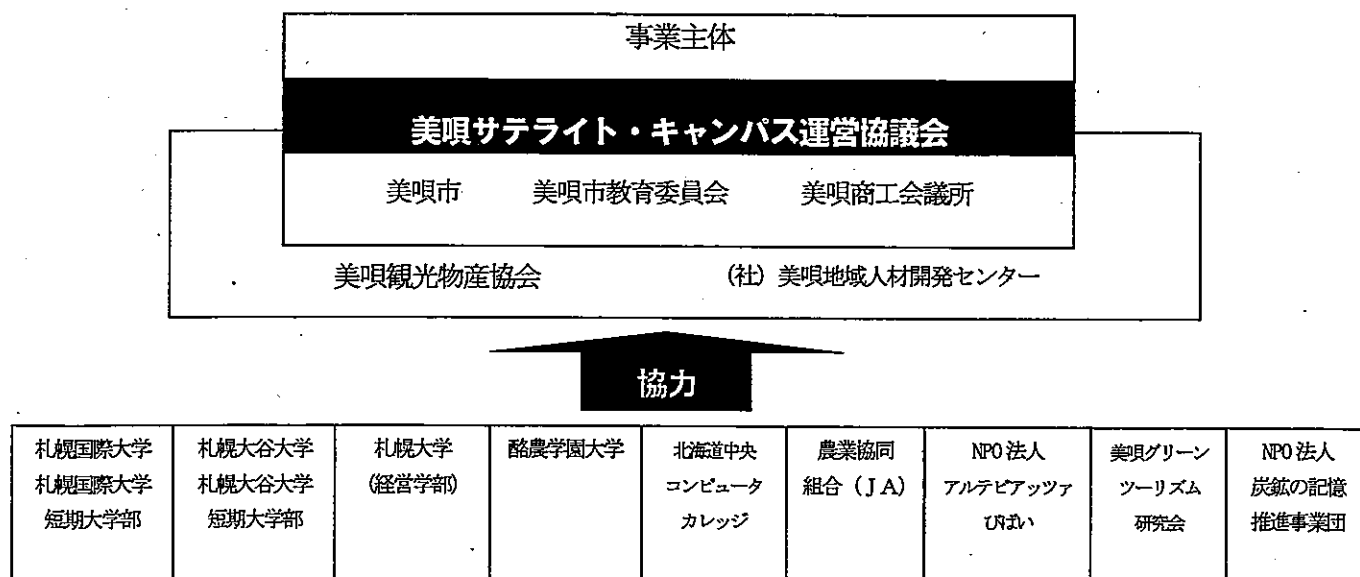
③講座運営に関する課題等を共有するため、各講師からも講座の開催結果を三者及び他の大学への報告をお願いしたいと考えています。【メール送信。メモ程度で可】

○協働事業の実施に当たっては、大学間の情報共有を図るための打合せ会議の設定等に取り組むこととします。

(2) 実施効果の検証

○より一層魅力ある講座を設定するため、受講者へのアンケート調査に加え、関係団体等からもヒアリング調査を行います。

○受講者アンケート調査結果等を取りまとめ、札幌国際大学、札幌大学及び札幌大谷大学を交えた検討会を開催(9月下旬及び2月頃を予定)し、①次年度以降のサテライト・キャンパスに関する考え方、②運営方法、③予算、④カリキュラムについて、次年度以降の事業が効果的なものとなるよう、協議して参ります。



など